

# 高知県感染症発生動向調査（週報）

2018年 第32週 （8月6日～8月12日）

## ★お知らせ

### ○夏型感染症（手足口病・咽頭結膜熱（プール熱）・ヘルパンギーナ）に気を付けて！

夏型感染症の報告が増加していますので注意しましょう。

#### 手足口病

定点医療機関当たりの報告数は、第31週の1.47から第32週には1.47と横ばいです。県全域から報告があり、中央東で急減、須崎で減少していますが、幡多で急増、安芸、高知市で増加し、特に安芸、高知市では注意報値を超えています。

病原体検出情報では臨床診断名「手足口病」として搬入された検体から *Coxsackievirus A16* が1例、*Coxsackievirus A9* が1例、*Rhinovirus* が1例検出されています。その他の手足口病・ヘルパンギーナの原因ウイルスであるエンテロウイルスの検出状況としては、臨床診断名「不明発疹症」「不明発疹症（EB?）」として搬入された検体から *Coxsackievirus A9* が4例検出されています。第30週・31週に臨床診断名「手足口病」の検体から検出された *Enterovirus 71* は中枢神経系の合併症の発症率が高いことが知られ、まれに急性髄膜炎や急性脳炎を生ずることがあります。高熱・嘔吐・頭痛が見られる場合は十分に注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

#### 咽頭結膜熱（プール熱）

定点医療機関当たりの報告数は、第31週の0.73から第32週は0.63と横ばいです。幡多、中央西で減少していますが、須崎、中央東で急増、高知市で増加し、特に幡多では注意報値を超えています。

定点医療機関からのホット情報ではアデノウイルスによる感染症9例の報告があります。

＜予防方法＞ これらの疾病は主に接触感染、飛沫感染、患者の便により感染が拡大します

手洗い・うがいが大切です。流水と石けんでよく手を洗いましょう。また、幼稚園、保育園、学校など集団生活ではタオル・コップ等を共用することは避けるなどして、感染予防に努めてください。

### ○流行性角結膜炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は、第31週0.67から第32週には1.67と急増しています。幡多で急減していますが、高知市で急増し、注意報値を超えています。

この病気は、「はやり目」とも言われ、流涙、結膜充血、眼脂が主な症状で、感染力が強く、片眼発症後は2～3日で両眼に発症することもあります。また、耳前リンパ節腫脹と圧痛を伴うこともあります。アデノウイルスによる接触感染のため、患者の眼や顔を触った後は流水と石けんでしっかり手洗いしましょう。

＜予防方法＞ 人が濃密に接触する機会が多い場所は注意して下さい

できるだけ他人との接触は避け、眼を触ったらすぐに石けんと流水で手洗いしましょう。家庭内ではタオル、枕、その他眼や涙で汚れそうな物の共有は避けるようにしましょう。

### ○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は、第31週の2.30から第32週には1.93と横ばいです。県全域から報告があり、須崎で急減、安芸、中央東で減少しています。

定点医療機関からのホット情報では、カンピロバクター属菌や病原性大腸菌など細菌を原因とする胃腸炎5例の報告があります。

病原体検出情報では臨床診断名「感染性胃腸炎」として搬入された検体から *Norovirus GII NT* が2例検出されていますので注意して下さい。

細菌による感染性胃腸炎のほとんどの場合、患者との接触（便など）や汚染された水、食品によって経口的に感染します。

＜予防方法＞ 手洗いが有効です。

帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。また、便や嘔吐物を処理する時は、感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにし、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用方法を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しましょう。処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

細菌による感染性胃腸炎の予防対策としては、食中毒の一般的な予防方法（食中毒菌を①付けない（洗う・

分ける) ②増やさない(低温保存・早めに食べる) ③やっつける(加熱処理))です。食品の冷所保存を心がけ、長期保存は避ける、加熱は十分にするなど、日常生活での食中毒予防を心がけてください。

### ○百日咳に気を付けて！

第32週に百日咳の発生届けが、中央東福祉保健所から1例、須崎福祉保健所から2例報告され、2018年にはいって高知県内の百日咳の届出は合計142例となっています。

百日咳は、感染力が強く、咳やくしゃみなどによる飛沫感染や接触感染により感染します。7~10日程度の潜伏期を経て、普通の咳症状で始まり、咳の回数が増えていきます。次第に短い咳が連続的に起こり、息を吸う時に笛のようなヒューという音が出るようになり、この様な咳嗽発作が繰り返されます。やがて、激しい咳は減衰していき、2~3ヶ月ほどで回復します。

百日咳は特にワクチン未接種の乳幼児が罹患すると重症化しやすく、罹患しても典型的な発作性の咳嗽を示すことが少ない比較的軽い症状の成人から重症化しやすいワクチン未接種の新生児や乳児へ感染することが考えられることから、成人で咳が長期にわたって持続する場合は注意して下さい。

＜予防方法＞ 4種混合ワクチンは生後3ヶ月から接種出来ます

- ・生まれた直後から百日咳にかかる可能性があります。咳が続いている人は、百日咳の可能性も考えて、赤ちゃんに注意して接しましょう。
- ・外出時にはマスクを着用し、人混みはなるべくさけ、帰宅時には、手洗いを励行しましょう。
- ・定期予防接種があります。ワクチンは生後3ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

### 【各医療機関管理者の皆様へ】

**百日咳は平成30年1月1日より、感染症法における患者把握方法が診断した患者全員の報告が必要な五類全数把握疾患に変更されています。**

百日咳への対応につきましては、高知県健康政策部健康対策課からも平成30年8月3日付け30高健対第767号「百日咳への注意喚起について」により、各医療機関管理者の皆様には、年齢にかかわらず、持続する咳や夜間の咳き込みなどの症状を呈する患者（特に小児及び妊婦）が来院した際は百日咳を意識した診療をお願いするとともに、百日咳と診断した際には、最寄りの保健所へ届出いただくことを併せてお願いしています。

●国立感染症研究所 百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン

[https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/pertussis/pertussis\\_guideline\\_180425.pdf](https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/pertussis/pertussis_guideline_180425.pdf)

当ガイドラインに届出基準（資料1）、発生届出様式（資料2）あり

☆山や草むらでの野外活動の際にはダニに注意



農作業や草刈りの時には、長袖・長ズボンで肌の露出を出来るだけ少なくしましょう。

日本紅斑熱や SFTS（重症熱性血小板減少症候群）は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）のマダニが媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖くなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

国内で入手できる忌避剤の種類と特徴

忌避剤	有効成分含有率	分類	有効持続時間	注意事項	特徴
ディート	5～10%	防除用 医薬部外品	1～2時間	6ヶ月未満児には 使用禁止	・独特の匂い ・べたつき感 ・プラスチック・化学繊維・皮革を腐食することもある
	12%	防除用 医薬品	約3時間		
	高濃度製剤 30%	防除用 医薬品	約6時間		
イカリジン	5%	防除用 医薬部外品	～6時間	12歳未満は 使用禁止	
	高濃度製剤 15%	防除用 医薬品	6～8時間		

※国立感染症研究所「マダニ対策、今できること」より抜粋  
※市販の虫除け剤(忌避剤)は、用法・用量・使用方法等をよく読んで使用してください。

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

SFTSはマダニからの感染が一般的ですが、最近の研究で、SFTSウイルスに感染し、発症している野生動物やイヌ・ネコなどの動物の血液からSFTSウイルスが検出されています。このことは、SFTSウイルスに感染している動物の血液などの体液に直接接触した場合、SFTSウイルスに感染することも否定できませんので、動物に触った後は必ず手洗いをするなどの感染予防に努めましょう。また、体調不良の動物と接触した後、発熱等の症状が出た時は、早めに医療機関を受診してください。その際には、動物との接触歴についても申し出てください。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）  
[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts\\_qa.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html)
- 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット  
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

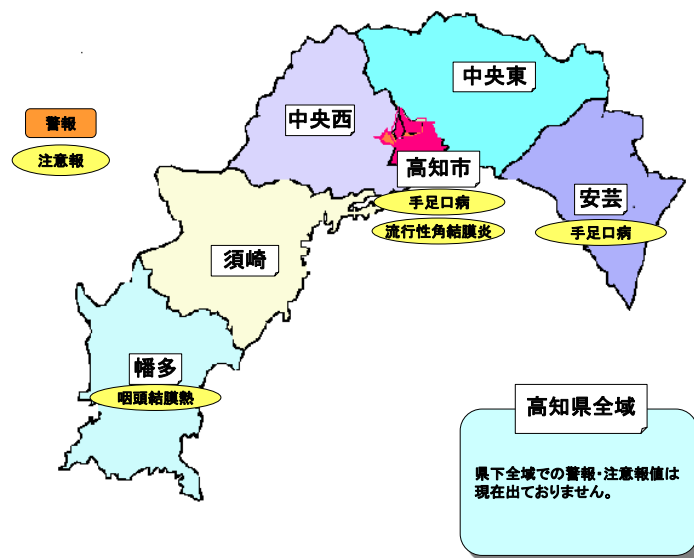
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症 (上位疾患)

↑ : 急増    ↗ : 増加    → : 横ばい    ↓ : 減少    ↓ : 急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	→	1. 9 3	須崎で急減、安芸、中央東で減少しています。
手足口病	→	1. 4 7	中央東で急減、須崎で減少していますが、幡多で急増、安芸、高知市で増加し、安芸、高知市では注意報値を超えています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	0. 7 7	須崎で急減していますが、中央東で急増しています。
咽頭結膜熱	→	0. 6 3	幡多、中央西で減少していますが、須崎、中央東で急増、高知市で増加し、幡多では注意報値を超えています。
RSウイルス感染症	↗	0. 6 0	幡多、中央東で急増、県全域、高知市で増加しています。

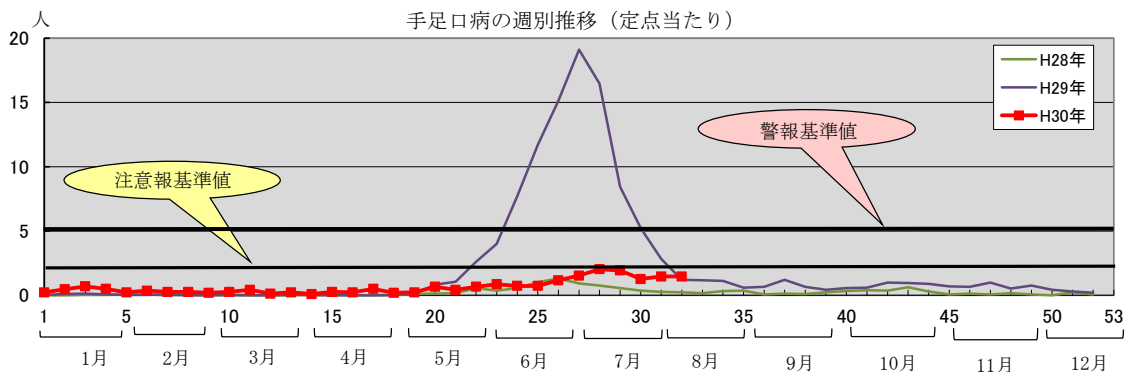
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

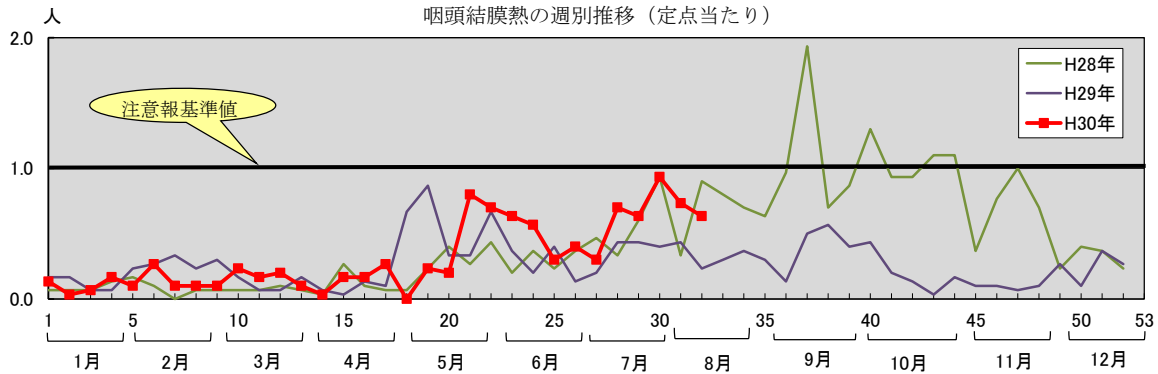
○手足口病 第32週：1.47 (注意報値：2.00 警報値：5.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり1.47(前週：1.47)と横ばいです。中央東1.00(前週：2.29)で急減、須崎1.50(前週：2.50)で減少していますが、幡多0.80(前週：0.40)で急増、安芸3.00(前週：2.00)高知市2.00(前週1.36)で増加し、安芸、高知市では注意報値を超えています。年齢別に見ると、患者の89%が5歳以下となっています。



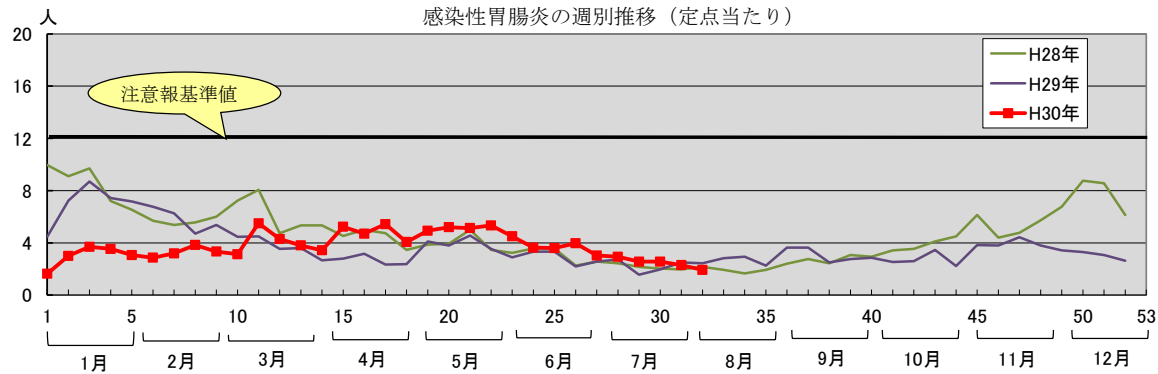
**○咽頭結膜熱 第32週：0.63 (注意報値：1.00 警報値：3.00)**

定点医療機関からの報告数は定点当たり 0.63 (前週：0.73) と横ばいです。幡多 1.40 (前週：2.80) 中央西 0.67 (前週：1.33) で減少していますが、須崎 0.50 (前週：0.00) 中央東 0.29 (前週：0.00) で急増、高知市 0.64 (前週：0.36) で増加し、幡多では注意報値を超えています。



**○感染性胃腸炎 第32週：1.93 (注意報値：12.00 警報値：20.00)**

定点医療機関からの報告数は定点当たり 1.93 (前週：2.30) と横ばいです。須崎 0.50 (前週：1.50) で急減、安芸 2.50 (前週：4.00) 中央東 2.00 (前週：2.86) で減少しています。



**★病原体検出情報**

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
32	感染性胃腸炎	38℃,嘔吐,嘔気,	9ヶ月	男	高知市	Norovirus GII NT
32	ヘルパンギーナ	39℃,咳嗽,上気道炎,気管支炎,	7ヶ月	男	中央東	Parainfluenza virus 3

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
29	—	41℃,	10ヶ月	男	幡多	Echovirus 7
29	—	41℃,	1	男	高知市	Human herpes virus 6
31	感染性胃腸炎	38℃,下痢,発疹,	10ヶ月	女	中央東	Rhinovirus Adenovirus 2 Norovirus GII NT
31	手足口病	38℃,発疹,	2	男	須崎	Coxsackievirus A16
31	不明発疹症	咳嗽,上気道炎,発疹,	1	女	高知市	Coxsackievirus A9
31	不明発疹症	発疹,	1	男	須崎	Coxsackievirus A9
31	不明発疹症	発疹,	1	男	須崎	Coxsackievirus A9
31	手足口病	38℃,発疹,	1	男	須崎	Coxsackievirus A9
31	不明発疹症 (EB?)	38℃,発疹,	2	女	須崎	Coxsackievirus A9
31	突発性発しん疑い	40℃,上気道炎,	1	女	高知市	Cytomegalovirus
31	不明熱 頸部リンパ節腫大	39℃,	6	女	須崎	Human herpes virus 7
31	急性気管支炎	39℃,咳嗽,上気道炎,	11ヶ月	女	中央東	Parainfluenza virus 3
31	手足口病	38℃,発疹,	1	男	須崎	Rhinovirus



★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2類	結 核	1	66	90歳代 女	高知市
5類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	9	80歳代 女	
	百日咳	1	142	20歳代 女	中央東
		1		5~9歳 男	須 崎
		1		5~9歳 男	

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
中央東	野市中央病院小児科	病原性大腸菌 O-25 ベロ毒素 (-) 1例 (7歳女)
高知市	高知医療センター小児科	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 1例 (1歳女) 病原性大腸菌 1例 (9ヶ月男)
	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス咽頭炎 5例 (0歳、1歳、2歳、5歳 2人) カンピロバクター腸炎+病原性大腸菌 O-111 1例 (4歳) 病原性大腸菌 O-28a 腸炎 1例 (11歳) 病原性大腸菌 O-6 腸炎 1例 (6歳)
	三愛病院小児科	ヘルペス性歯肉口内炎 1例 (1歳女)
	福井小児科・内科・循環器科	アデノウイルス感染症 1例 (5歳女) 溶連菌感染症 2例 手足口病 4例 ヘルパンギーナ 3例
中央西	くぼたこどもクリニック	突発性発疹 1例 (1歳女：いの町)
須 崎	もりはた小児科	百日咳 1例 (9歳男)
幡 多	こいけクリニック	アデノウイルス感染症 2例 (1歳女、6歳男)
	さたけ小児科	アデノ 1例 (5歳男) 水痘 3例 (6歳女 3人：ワクチン接種していない)

★全国情報

第30号 (7月23日～7月29日)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核344例

3類感染症：細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症182例

4類感染症：E型肝炎8例、A型肝炎14例、回帰熱1例、重症熱性血小板減少症候群3例

デング熱2例、日本紅斑熱3例、マラリア1例、ライム病1例、類鼻疽1例、レジオネラ症32例

5類感染症：アメーバ赤痢8例、ウイルス性肝炎1例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症35例

急性脳炎7例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症5例

後天性免疫不全症候群22例、ジアルジア症1例、侵襲性インフルエンザ菌感染症7例

侵襲性肺炎球菌感染症18例、水痘 (入院例に限る) 6例、梅毒81例、

播種性クリプトコックス症1例、破傷風3例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症3例、

百日咳216例、風しん15例、麻しん1例

削除予定：麻しん1例

報告遅れ：日本紅斑熱1例、レジオネラ症8例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症21例、

急性弛緩性麻痺1例、急性脳炎4例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例、

水痘 (入院例に限る) 3例、梅毒54例、播種性クリプトコックス症1例、

バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、百日咳88例、麻しん3例

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第32週 平成30年8月6日(月)～平成30年8月12日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第32週							計	前週	全国(31週)	高知県(32週末累計)		全国(31週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/1/1～H30/8/12				H30/1/1～H30/8/5			
インフルエンザ	インフルエンザ								( )	( )	262 ( 0.05)	20,862 ( 434.63)	1,760,018 ( 356.13)			
小児科	咽頭結核熱			2	7	2	1	7	19 ( 0.63)	22 ( 0.73)	1,594 ( 0.51)	305 ( 10.17)	45,954 ( 14.56)			
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			3	13	2	1	4	23 ( 0.77)	25 ( 0.83)	4,532 ( 1.44)	1,320 ( 44.00)	234,551 ( 74.32)			
	感染性胃腸炎		5	14	29	2	1	7	58 ( 1.93)	69 ( 2.30)	12,145 ( 3.86)	3,582 ( 119.40)	517,115 ( 163.85)			
	水痘			1	1			3	5 ( 0.17)	10 ( 0.33)	721 ( 0.23)	173 ( 5.77)	31,904 ( 10.11)			
	手足口病		6	7	22	2	3	4	44 ( 1.47)	44 ( 1.47)	5,389 ( 1.71)	624 ( 20.80)	64,957 ( 20.58)			
	伝染性紅斑			2				2	4 ( 0.13)	2 ( 0.07)	919 ( 0.29)	77 ( 2.57)	15,539 ( 4.92)			
	突発性発疹			1	6	2	1	1	11 ( 0.37)	9 ( 0.30)	1,497 ( 0.48)	347 ( 11.57)	43,774 ( 13.87)			
	ヘルパンギーナ		1		4	4		1	10 ( 0.33)	14 ( 0.47)	9,809 ( 3.12)	72 ( 2.40)	49,763 ( 15.77)			
	流行性耳下腺炎				2			1	3 ( 0.10)	2 ( 0.07)	492 ( 0.16)	47 ( 1.57)	15,699 ( 4.97)			
	RSウイルス感染症			2	5			11	18 ( 0.60)	10 ( 0.33)	4,180 ( 1.33)	229 ( 7.63)	43,885 ( 13.91)			
眼科	急性出血性結核炎							( )	( )	9 ( 0.01)	( )	422 ( 0.61)				
	流行性角結核炎				5			5 ( 1.67)	2 ( 0.67)	756 ( 1.09)	41 ( 13.67)	17,114 ( 24.55)				
基幹	細菌性髄膜炎							( )	( )	7 ( 0.01)	3 ( 0.38)	297 ( 0.62)				
	無菌性髄膜炎							( )	( )	32 ( 0.07)	1 ( 0.13)	421 ( 0.88)				
	マイコプラズマ肺炎				2			2 ( 0.25)	3 ( 0.38)	115 ( 0.24)	53 ( 6.63)	2,492 ( 5.19)				
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)							( )	( )	1 ( )	12 ( 1.50)	99 ( 0.21)				
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)							( )	( )	4 ( 0.01)	29 ( 3.63)	2,984 ( 6.22)				
計(小児科定点当たり人数)		12 ( 6.00)	32 ( 4.58)	96 ( 8.09)	14 ( 4.68)	7 ( 3.50)	41 ( 8.20)	202 ( 6.50)			42,464 ( 660.51)	27,777 ( 660.51)	2,846,988			
前週(小児科定点当たり人数)		12 ( 6.00)	44 ( 6.01)	91 ( 8.09)	13 ( 4.34)	13 ( 6.50)	39 ( 7.60)		212 ( 6.90)							

注 ( )は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第32週							計	前週	全国(31週)	高知県(32週末累計)		全国(31週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/1/1～H30/8/12				H30/1/1～H30/8/5			
インフルエンザ	インフルエンザ										0.05	434.63	356.13			
小児科	咽頭結核熱			0.29	0.64	0.67	0.50	1.40	0.63	0.73	0.51	10.17	14.56			
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			0.43	1.18	0.67	0.50	0.80	0.77	0.83	1.44	44.00	74.32			
	感染性胃腸炎		2.50	2.00	2.64	0.67	0.50	1.40	1.93	2.30	3.86	119.40	163.85			
	水痘			0.14	0.09			0.60	0.17	0.33	0.23	5.77	10.11			
	手足口病		3.00	1.00	2.00	0.67	1.50	0.80	1.47	1.47	1.71	20.80	20.58			
	伝染性紅斑			0.29				0.40	0.13	0.07	0.29	2.57	4.92			
	突発性発疹			0.14	0.55	0.67	0.50	0.20	0.37	0.30	0.48	11.57	13.87			
	ヘルパンギーナ		0.50		0.36	1.33		0.20	0.33	0.47	3.12	2.40	15.77			
	流行性耳下腺炎				0.18			0.20	0.10	0.07	0.16	1.57	4.97			
	RSウイルス感染症			0.29	0.45			2.20	0.60	0.33	1.33	7.63	13.91			
眼科	急性出血性結核炎										0.01		0.61			
	流行性角結核炎				5.00			1.67	0.67	1.09	13.67	24.55				
基幹	細菌性髄膜炎										0.01	0.38	0.62			
	無菌性髄膜炎										0.07	0.13	0.88			
	マイコプラズマ肺炎				0.40			0.25	0.38	0.24	6.63	5.19				
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)										1.50	0.21				
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)										0.01	3.63	6.22			
計(小児科定点当たり人数)		6.00	4.58	8.09	4.68	3.50	8.20	6.50			660.51	660.51				
前週(小児科定点当たり人数)		6.00	6.01	8.09	4.34	6.50	7.60		6.90							

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）  
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）  
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2018年8月13日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。